

～ネットで自衛消防訓練～



初めて訓練を行う方におすすめ！

火災が発生したときの自衛消防隊の基本的な活動について、ストーリー仕立てで解説しています。また、消防用設備等の取扱い要領や使用時の注意点についても学べる内容となっています。

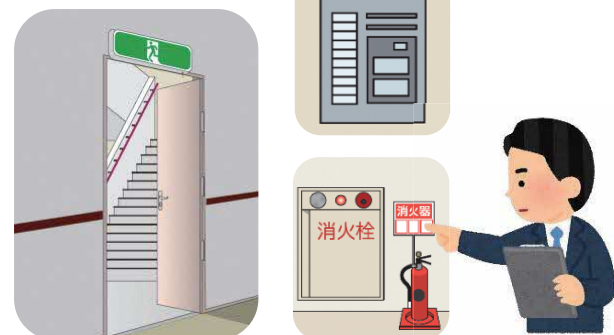
「初めての自衛消防訓練でどんなことを実施したら良いか分からない・・・」という方や、消防用設備等の使用方法を学びたいという方、ぜひ「ネットで自衛消防訓練」をご活用ください！

～ネットで自衛消防訓練の活用方法について～

1. 動画を見る (各自で見てもOK！)



2. 勤務先の設備の設置場所や避難経路を確認する



東京消防庁管内では、**ネットで自衛消防訓練は法定訓練**として扱います！
ネットで自衛消防訓練を活用して訓練を行う際も**消防署へご連絡ください。**



～消防署への自衛消防訓練連絡方法について～



連絡方法は、電子申請・窓口・郵送・FAXがあります。
訓練の連絡の手続きは**電子申請**が便利です。
詳しくは、東京消防庁のホームページをご覧ください。

東京消防庁 電子申請



問合せ先

令和6年（2024年）2月発行

ネットで自衛消防訓練 ～地震編～



もしも明日、首都直下地震が来たら・・・
大切な命を守れますか？

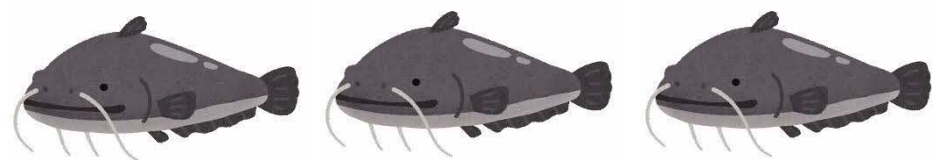


日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語で公開中！！

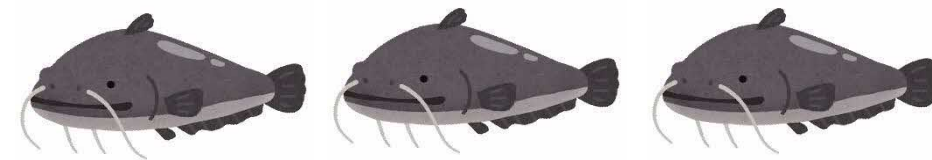
東京消防庁
TOKYO FIRE DEPARTMENT



公益財団法人
東京防災救急協会
Tokyo Disaster Prevention & Emergency Medical Service Association



地震発生時の自衛消防活動



緊急地震速報を受信！その時自衛消防隊は・・・？



- 落ち着いて身の安全を確保するように指示する。
- 身の安全の確保、落ち着いた行動をとること等を放送し、パニック防止を図る。

揺れが収まったら活動開始！



安全措置



- 【出火防止措置】
- ガスの元栓閉鎖
 - ヒーター等の電源の遮断
 - 燃料供給の遮断
- 【その他】
- 避難できる出口の確保
- 揺れが収まるまでは、身の安全が第一です！！**

被害状況・活動状況の把握

- 火災の発生状況
- 機器や物品等の転倒・落下
- 消防用設備等の被害状況
- 天井の崩落の有無
- 窓ガラスの破損
- けが人の有無



常に新たな地震の発生に注意して活動しましょう！

災害情報の収集と伝達



- 地震の概要
 - 交通機関の運行停止状況
 - 従業員、来訪者等の把握
 - 屋外の被害状況
- 自衛消防隊長や在館者へ適宜伝達しましょう！**

消防機関への通報等



- 所在地や建物名称
 - 火災発生の有無
 - けが人の有無、人数
 - 救助が必要か
- 緊急性の高いものを優先して通報しましょう！**

初期の救出・救護

- 事業所で保有する救出のための資器材等を活用した救出措置を行う。
 - 新たな地震、火災、壁の崩落等による二次被害の防止に配慮した活動を行う。
 - 自衛消防隊長に報告後、周りの者と協力して周囲の安全を確認しながら作業を行う。
- 自身の建物にある救出資器材の種類や使用方法等について事前に確認しておきましょう！**



救出資器材

- ・バール
 - ・ジャッキ
 - ・ロープ
 - ・担架
 - ・毛布
 - ・のこぎり
 - ・ハンマー
 - ・おの
- ※一例です。

エレベーターの閉じ込め対応

- インターホン等で閉じ込められた人の有無を確認する。
- 速やかに防災センター、自衛消防隊長に報告し、エレベーター管理会社の緊急連絡先に連絡する。
- エレベーター管理会社へ連絡した旨や地震の状況等を閉じ込められた人に伝え、落ち着かせる。
- エレベーター管理会社が到着したら、停止位置等の情報を伝達し現場まで誘導する。

～閉じ込められた人～
インターホンで連絡が取れない場合は、携帯電話を活用します。
連絡手段がない場合は壁を叩いて外部に知らせましょう！



建物に被害がなければ自衛消防隊の活動は終わり・・・？



外にはこんな危険が潜んでる！

駅に人が殺到、タクシー乗り場には長蛇の列、道路は人で溢れ、新たな地震により崩れてくる外壁や看板・・・

二次被害を防止するためには、従業員を帰宅困難者にさせないための活動が重要になってきます。情報収集や待機場所の設営、備蓄品の配布等、地震が収まった後も自衛消防活動は続いています！

自衛消防隊としてどんな活動ができるかな？



「従業員の一斉帰宅の抑制」

「東京の被害想定」※では、**帰宅困難者が約450万人**発生すると想定されています。混乱が収まるまでは一斉帰宅の抑制を行い従業員の安全を確保しましょう。落ち着いてきたら、あらかじめ消防計画に定めている時差退社計画表を活用し、**従業員を無事に帰宅させられるまで**自衛消防活動を実施しましょう。

情報収集

- 地震の規模や被害状況等をラジオ、テレビ、インターネット等から情報を集める。
- 従業員の帰宅ルートを把握する。
- 帰宅を開始した者を把握し、状況を管理する。

情報提供

- 収集した情報を館内放送等で在館者に提供をする。
 - 建物の被害状況
 - 災害発生状況
 - 交通機関の運行状況
 - 通行不能な道路
- etc.

待機場所の設営

- 待機場所に椅子、マット、毛布その他必要な物品を準備設営する。
- 監視、巡回等を行う人員を配置し、待機場所、出入口等を管理する。
- 時差退社計画表などを活用し、従業員の帰宅状況を管理する。

備蓄品の配布

倉庫に保管している備蓄品を配布場所へ搬送し、配布体制を整える。

配布時のポイント

- ・配布区域を指定する
 - ・配布時間をずらす
 - ・代表者に配布する etc.
- 混乱を避ける工夫が大切！**

日頃からの備えが大切

- ・食料・飲料水
- ・救急用品等
- ・携帯ラジオ
- ・懐中電灯
- ・簡易トイレ
- ・毛布



※一例です。